



# かわせみ通信

11月号  
2022年11月  
Vol.159

発行所  株式会社 東海テクノ 本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号 (〒510-0023)  
TEL.059-332-5122 (代) <https://www.tokai-techno.co.jp>

## 未来を拓く 法人訪問

SDGsの国際目標 2030年まであと8年。地球の持続可能性は企業としても取りこまざるを得ない目標となってきました。企業責任というだけでなく、企業価値向上など、その方向性は多岐に渡ります。当社がお取引いただいている法人様の表からは見えてこない独自の取り組みについて、インタビューした内容をご紹介します。取り組み事例をお届けいたします。

### 認定 NPO 法人 環境リレーションズ研究所 理事長 鈴木 敦子 様



#### ◆主な事業内容

東京都の認定を受けた認定NPO法人として、「Present Tree」を中心に100年先まで継続する森づくりを、多くの人たちと共に実践している。

### 人生の記念日に木を植えませんか？



「Present Tree in くまもと山都」 植栽地



「Present Tree in みやぎ大崎」

「日本人の環境意識はヨーロッパに比べても勝るとも劣らない。「森と水を守ろう」と言うと、日本人の9割以上は賛同するが、森を守るといふ行動には繋がっていかない。木材自給率が20%を切っていた2000年代初め、日本人が森を放棄していくことに危機を感じた。プレゼントツリーの原点は、個々が森林再生に参加できる機会の入り口になればと、導線考えた。

木材は価格面で輸入材に押され、国産材が売れなくなり、皆伐放棄地が増加。木材自給率が回復しつつある最近でも、高齢化による再植栽未済地が深刻な問題。そのような課題を抱える地域で、プレゼントツリーをスタートする森は自治体、地元の林業家、森の所有者と4者で協定を結ぶところから始めている。地元関係者を巻き込むことが重要である。

### 人工林には戻さず天然林に

皆伐放棄地は人工林経営の破綻でもあるため、スギやヒノキではなく、専門家にも助言を受け、土地の植生に見合った樹種による森林再生を行っている。元来その地に在った天然林に近い形になるよう10年間管理し、その後は地元の地域資源として返す。再植栽未済地や、荒廃人工林は、土砂災害や気象災害が懸念されるが、天然林のような混交林は根が絡み合うため、土壌が流れにくく、強い森になっていく。

### オーナーではなく里親

記念樹をプレゼントに贈ることで、1本ごとに植樹証明書が発行される。記念樹を買うのではなく、飽くまでも育てるための寄付として10年間、樹の里親になるというもの。林業従事者が減り、所有者の高齢化も深刻な問題。一人では森を守っていくことができなくても、多くの人たちが参加することで、その樹や森の成長に関与していくことが大事。植樹イベントなど、ぜひ参加して体感していただきたい。

### インタビューの感想

SDGsという言葉では片づけられない国内の林業問題に早くから危機を感じられ、2005年から活動、今や国内外42か所34万本の木を植えられるそうです。三重県からは、未だプレゼントツリー誘致の話は来ていないようですが、県内に皆伐放棄地が少ないからかもしれません。しかし、実際に問題は広がっており、脱炭素化への取り組みや土砂災害防止への貢献で参加されている企業が増えているそうです。個人での参加もできるので、これをきっかけに私も関わってみたいと思いました。

## 三重県とおき情報 ①

### Blue Seafood Guide ご存知ですか？

米国で発足された海洋環境改善を目的としたNGO団体『セイラーズフォーザシー (Sailors for the Sea)』には日本支部があり、「持続可能な水産物を優先的に消費することにより、日本の漁業を支援しながら枯渇した水産資源の回復を促進していこう」という活動に賛同する自治体や企業を認定しています。三重県は自治体として、比較的早い段階で包括協定を結んでおり、Blue Seafood Guide三重県版にはマグロやカツオといった天然の水産物以外に、養殖のワカメやアオサ、スジアオノリも指定されています。南伊勢マリンバイオ (MMB) モシーフードパートナーの認定を受けており、先月3年ぶりに行われた横浜でのチャリティーレセプションへ参加してきました。設立者ディビット・ロックフェラーJrご夫妻や小池東京都知事を始め、200名を超える国内外のゲストの方々をもてなすメニューにMMBのスジアオノリを使っていただきました。ようやく個人向け商品販売も開始し、三重の味を拡げています。

<https://sailorsforthesea.jp/blueseasfood>

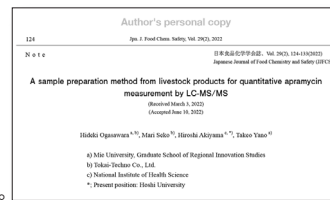


## テクノの横顔 ～社外でも活躍しています～の巻 vol.8

### 日本食品化学学会誌に論文が掲載されました

日本食品化学学会誌 (Vol.29 2022) に三重大学・矢野教授、星薬科大学・権山教授と当社応用ラボGr・小笠原と瀬古が共同執筆した論文「アブラマイシンのLC-MS/MS分析のための畜産物からの試料調製法」が掲載されました。アブラマイシンとは動物の感染症治療に利用されるアミノグリコシド系抗生物質で、本論文では畜産物に残留するアブラマイシンを測定するために、影響を及ぼすマトリクス成分を除去する有効な方法を確認しています。

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jfjcs/29/2/29\\_124/\\_article-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jfjcs/29/2/29_124/_article-char/ja/)



### 東海テクノからのお知らせ

弊社では資源の消費抑制やCO2の排出削減等の環境保全活動に取り組んでおります。その一環として今年度から年賀状でのご挨拶を取り止める事と致しました。ご理解いただけますと幸いです。今後とも変わらぬご愛顧をよろしくお願い申し上げます。

## 社員プチコラム

### 佐久間 麻友 (松阪分析センター 松阪調査Gr)

休日には花や植物に触れるのが癒しのひとときです。元々、園芸や花の撮影が趣味でしたが、コロナ禍で人の多い場所に出かけにくくなったこともあり、家や近所の自然の中で楽しめるカメラに凝るようになりました。庭や公園の草花、自分で作ったアレンジメントや寄せ植えなどを被写体にして、植物の美しさを再発見しています。レンズや設定を変えると見え方が変わるのも面白いところ。肉眼では見えない世界に出会えます。コロナの制限もなくなってきて、いつか見たかった景色を撮影しに行くことができると思うとこれから楽しみです。



### 編集後記

今月は意図せずSDGs的な内容になってしまいましたが、森や海を守りたいと行動されている方々があつたの今なのだと強く感じました。一人の力は小さいかもしれませんが、社会全体でサステナブルを推進していけるようになれば理想ですね。(みっちー)

